第509号(増刊号) 2017. 5. 1

第52回定時社員総会

(名南会創立50周年記念総会)のご案内

法人定款第22条、第25条及び第27条の規定による「医療法人名南会 第52回定時社員総会」を 下記のように開催いたしますのでご通知申し上げます。 2017年5月 医療法人名南会

●日時:2017年 午前 10 時~ **5月28日(日)**午後2時30分

午前9時30分 ■ 開場・受付開始

■総会議事

午前10時~12時

(休憩)

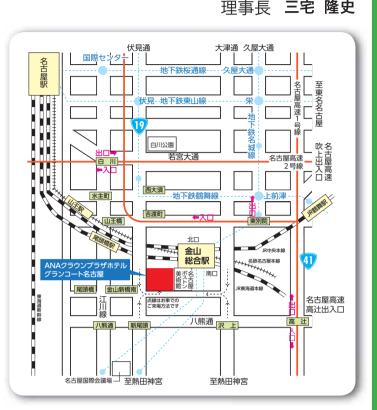
■創立50周年記念祝賀会

(祝賀会は、社員総会参加者及び来賓・ご招 待者のみのご参加とさせていただきます。)

午後0時30分~2時30分 【午後0時(正午)開場・受付】

- ※記念祝賀会は総会と同会場です。総会ご参加の 社員の皆様は、総会に引き続いてご参加くださ い。
- ※祝賀会では、お食事・お飲み物をご用意させて いただきます。

お車でのお越しはご遠慮いただき、公共交通機 関をご利用ください。



●会場: ANA クラウンプラザホテル グランコート名古屋

名古屋市中区金山町一丁目1番1号 TEL:052-683-4111 【JR・名鉄・地下鉄「金山駅」 南口すぐ】



第509号(部内資料) (毎月1回、1日発行)

発 行 医療法人 名南会 名古屋市南区豊田 五丁目15番18号 発行責任者 西本 義弘

☎052-692-2388



的

2016 年度諸活動と 2017 年度活動方針案

名南病院

現在病院地域では少子高齢化と貧困化が進行してお り、病院を利用する患者さんの内65歳以上が外来で 61%、入院が85%と増加する一方、65歳未満は全年代 で減少となっています。複数の疾患を持ち介護度の高 い高齢者が増える中で、住み慣れた地域で安心して生 活ができるよう支援する役割はますます重要になって います。2016年度は、かかりやすい外来と入院の在宅 支援機能向上、地域連携強化、職員育成、全職員の経 営の4点を中心に活動をすすめてきました。

かかりやすい外来づくり: 玄関案内板の設置など 救急受入れの改善等をすすめ休日の受診が15年度比 1.3倍となりました。地域では孤独死が増えており独居 把握のための家族構成調査を開始しました。また多職 種で熱中症予防訪問を実施しました。南区の生活保護 受給率が中村区を抜き市内トップとなり貧困化が急速 にすすんでおり無料低額診療の役割は一層重要になっ ています。ホームページへの無低診ページの新設やス テッカーの普及などおこない、利用件数383件(15年 比140%)、新規承認数51件(15年比164%)、免除 活動を強め、子ども食堂(16年度は4回開催)を通じた びています。 就学援助世帯への周知や、外国人問題での行政への働 きかけを追求します。

入院の在宅支援機能向上: 2階病棟では地域包括 千秋病院PG、中京病院PGに連携施設として登録しま ネットワークづくりを牽引していきます。

ケア病棟チームが結成され、情報共有とADL改善の取 り組みがすすんでいます。3階、4階病棟では専従リハ ビリ職員を配置しADL低下予防を強化しました。また 病棟薬剤師を配置し服薬整理やカンファレンスへの参 加で退院支援を強めてきました。名南会初の糖尿病認 定看護師と、新たに4名の糖尿病療養指導士が誕生しま した。認知症サポートチームは、研修参加など対応力 の向上をすすめています。今年度も多職種協働による 質向上を追求します。



認知症サポーターチーム会議

地域連携:「地域医療介護交流会」は、3回開催 (延べ50名が参加) し、いきいき支援センターや介護 事業所との連携がすすみました。11月より他法人の在 宅療養支援診療所との間で連携強化型在宅療養支援を 総額で事業開始以来最高となりました。引き続き広報 開始しました。法人外からの紹介は前年比109%と伸 た。

> 4 医師の確保と養成:『総合診療専門医』研修施設 名南病院の役割は一層重要になっています。今年度も 登録は、みなと協立総合病院プログラム(以下PG)、 住民との共同と地域事業所との連携を強め、地域包括

した。また『内科専門医』は、みなと協立総合病院の PGと中京病院のPGの特別連携施設として登録し、『小 児科専門医』は、あいち小児保健医療総合センターPG に連携施設として登録しました。研修医の心を揺り動 かす研修が実現できるよう研修内容の充実化を図り総 合診療医の確保をすすめます。

 全職員の経営: 2016年度経常利益目標の1046万 円を大きく上回る見通しです。外来、健診、居宅は予算 達成しました。外来は件数・初診数は前年を上回りまし た。入院は病床稼働が10年間で最高となる一方、日当 円が低く予算未達成でした。健診は、特定健診が前年 を下回りましたが、大腸がんや胃がん・協会けんぽ健 診が伸び、収益は10年間で最高の到達となりました。 2017年度もかかりやすい外来づくりや入院の在宅支援 機能を強め、全職員の知恵と力を結集して利益予算達 成を目指します。

その他;HPH、地域組織活動

HPH国際ネットワークへの名南病院の加盟が承認さ れ、東海地方で初の加盟病院となりました。資金募集は 4000万円の年間目標を達成しました。12月より始まっ た友の会主催の「子ども食堂」への協力をおこないまし

総合的な医療介護の提供で在宅生活を支援していく

めいなん新聞は通常一世帯一部でお届けさせていただいていますが、今回は「総会特集号」のため 社員、名南会協同基金協力者のおひとりおひとり一部ずつお届けさせていただきます。

第509号(増刊号) 2017. 5. 1

各院所の 2016 年度の活動ふりかえり

名南ふれあい病院・ 名南介護老人保健施設かたらいの里・ ヘルパーステーションきずな

2016年度は診療報酬改定があり、名 南ふれあい病院の回復期リハビリテーショ ン病棟はより高い質を求められることに なりました。在宅生活を見据えたリハビリ テーションの提供はもちろんのこと退院後 も切れ目なくリハビリテーションが継続で きるように支援をしてきました。退院支援 加算の算定を開始しました。これまでも退 院支援は注力してきましたが、これによっ て入院直後から退院支援に関われる体制を つくり、早期に住み慣れた地域での生活を 継続できるように地域の関係機関との連携 を強化しました。介護療養病棟は療養機能 強化型の介護療養型医療施設となっており 2018年における介護療養型医療施設の廃 止や今後の求められる役割から認知症を抱 える重介護者の療養の場と人生の最終段階 をどう支えるか、より満足して頂けるター ミナルケアを目指して看取りの場であるこ との強化を図ってきています。

かたらいの里は昨年度 末に在宅復帰・在宅療養支援 機能加算を算定するようにな り、特に在宅療養者が在宅生 活を継続できるようにリハビ リテーションやショートステ

イ、中期間の入所受入れなどに力を入れて きた。近隣の居宅介護支援事業所に適宜 訪問したり、交流会を開くことでケアマネ ジャーとのつながりをつくってきたことで 新規の利用者が増えており、在宅生活を支 える老人保健施設として役割を果たしてい ます。無差別平等の医療介護の実践として 行なっている「無料低額利用事業」は徐々 に利用が拡大しており、介護を必要とする 人が必要な介護が受けられるようにできて います。

3年度末にはCT、エックス線TVシ ステムの医療機器更新を行ないました。 検査にかかる患者さんへの負担が少なく なり、画質も向上しました。頭部のCT 撮影、胃透視、嚥下造影など当院の医療 活動に欠かせない検査の質が向上したこ とで病気の発見、治療方針の決定に関す ることが前進したと言えます。

社保・平和活動はさらに盛り上がり を見せています。戦争法廃止署名をはじ めとする各種署名活動や原水禁世界大 会、3・1ビキニデーへの派遣をし、 ピースカフェも今年度から取り組みを始 めました。戦争法廃止署名は2469筆を短 期間で集めることができました。原水禁 世界大会には3人の職員を派遣し、壮行会 の決意や報告会の内容はとても良いもの でした。このように民医連の職員、事業 所として必要な運動・行動が近年広がり を見せており、地域や職員への訴えを活 発に行なってきています。

| 地域組織活動では安心して住み続け られるまちづくりをすすめるために共同 組織のみなさんと共同で訪問行動を実施 してきましたがまだまだ回数が少ない状 況です。今後は豊田学区の友の会員さ ん宅全戸に健診のおすすすめや安否確認 をしていきたいと思います。豊田学区 コミュニティーセンターで開催している 「ふれあい健康教室」は徐々に参加者が 増えてきています。特に「笑いヨガ」は 人気があり今後も継続して行なって地域 の健康づくり活動として定着させていき たいと思います。名南会協同基金は2400 万円を超す協力が得られましたが目標に は到達できませんでした。しかし職員の 呼びかけの努力により昨年より多い3500 件の協力を得ることができました。

かたらいの里で毎月開催している認知 症カフェ「カフェひまわり」は友の会と 共同で開催しており介護者等のほっと一 息つける場所として参加者は徐々に増え つつあります。職員のボランティアで演 奏会も行なっており人気です。今後はさ らに参加者を増やし、認知症をもつ人が 地域で暮らし続けられるような取り組み を行ないたいと思います。



名南ふれあい病院、名南介護老人保健 施設かたらいの里、ヘルパーステーショ ンきずなはリハビリテーションと介護で 在宅復帰から在宅生活支援を行なう事業 所として地域に貢献してきています。今 後も地域に頼られる事業所として活動を していきたいと思います。

名南診療所・デイサービス庵・ 訪問看護ステーションきずな

名南診療所は、在宅支援診療所 として訪問診療をはじめ、訪問看 護ステーション、外来診療、居宅 介護支援事業所、デイケア、デイ サービスなど総勢50名を超える 職員を抱える複合型事業所とな りました。今後も名南健康友の会 と協力しながら、民医連の掲げる 「無差別平等の地域包括ケアシス テム」の中核として存在意義を発 揮して行きます。

2016年度は医療分野では 「愛知県地域医療構想」が公示 され、急性期病床から回復期へと 転床し、慢性期病床から在宅医 療へシフトする内容となっていま す。また、介護分野では名古屋市 が「新しい総合事業」を開始し、 2017年4月に本格実施としてい ます。

在宅医療、居宅介護を中心事 業とする名南診療所もこれらの 医療・介護をめぐる情勢とは無関 係ではありえません。「無差別平 等」を中心にすえながら、医療・ 介護分野でのたたかいと対応を強 めていきます。

2 地域連携では、法人内外の病 院、事業所から紹介を受けてきま した。また法人内外の連携会議も 質的な向上をはかってきました。 訪問診療と訪看きずなの連携によ り重症者の受け入れもすすんでい ます。患者さんやご家族の意向を 第一に考え、お一人おひとりに寄 り添った医療・看護の提供に努め

3 在宅支援診療所、訪問看護 ステーションとして質的な向上を 目指す中で、医療系学校の実習 フィールドとして門戸を広げてき ました。(現在;中央看護専門学 校、名古屋市医師会看護専門学 校、来年度より;藤田保健衛生大 学医学部)

居宅部門では、利用者が減少 し、経営的にも厳しい状況となっ ています。管理運営体制を見直す とともに、地域での連携を強めま す。同時に名南会のネットワーク を生かしながら利用者増を目指し ます。

5 第14回「名南診療所健康ま つり」(11月)は地域から170 名以上の参加で盛大に行われま した。友の会健診、大腸がん検診 は目標を達成することが出来まし た。しかし、資金募集では残念な がら年度内に目標額に到達するこ とは出来ませんでした。今後も、 健診、資金募集に力を入れるとと もに、トスカの健康チェックなど 地域の健康づくりに貢献していき



名南診療所健康まつり

中川診療所· 住宅型有料老人ホームひなた

住宅型有料老人ホーム「ひなた」開所、『助けあ れています。 おまい会』の活動始まる!

中川診療所は、2016年度から「住宅型有料老 人ホームひなた」が加わり、中川地域の名南会の 活動の幅がさらに広がりました。また、新しい形 のボランティア『助けあおまい会』の活動も始ま り、安心して住み続けられるまちづくりの具体的 な援助が始まろうとしています。

【外来医療】

中川診療所の地域で困難を抱える生活者のため に行政も巻きこみ支援会議を行ってきましたが、 2016年にも中川区役所福祉課や名古屋西部児童 ぼの会」とも連携して支援を行ってきました。

健診運動では「特定健診」850件、「大腸ガン 検診」858件を実施し、過去最高の前年には及び ませんでしたがいずれも名南病院に次ぐ実施数を 確保しました。外来診療では医師を増員してきま したが、水曜日担当の退職もあり山口所長の負担 が増えた結果、利用患者数は増えたものの収入は 前年より減る結果になりました。今年度は5人の 非常勤医師が診療に加わり、水・木曜日の午前中 は二人の医師が診療に入るため、今までより更に 待ち時間が緩和され予約が取りやすくなります。 引き続きたくさんの患者さんを受け入れ、待ち時 間を短くするため医師体制を充実していきます。

【デイケアひまわり】

一昨年過去最高の方が利用されましたが昨年は 数が落ち込み、健康友の会も一緒になって新たな 利用者の受け入れに取り組み、秋から再び利用者 が増えています。区内や区外のケアマネからも問 い合わせや紹介があり「お試し」利用や新規の利 用者さんが毎月のようにあります。老人ホームひ なたの入居者の方の利用も多く喜ばれています。

[中川診療所居宅介護支援事業所]

初めての介護相談の方にも気軽に親切に相談に 者の生活を支えていきます。

応じてきました。毎週木曜日の「サロンなかしん さん」でもコーヒーを飲みながら無料相談できま す。老人ホームひなたの入居者にも連携して対応 しているため、ご本人やご家族からたいへん喜ば

【住宅型有料老人ホームひなた】

名南会初めての老人ホームとして2016年秋に 開所し、現在までに250人を超える見学者が訪れ ています。昨年末までは入居者も極めて少数でし たが、少しずつ増えてきており現在までに短期利 用も含め12人の人に利用いただいています。入居 者の方からは「職員の人たちから親切にされて嬉 しい」「隣(中川診療所)のデイケアがとっても楽 しみ」などのお言葉をいただき、ご家族の方から は「高齢者だけで暮らしていたので心配だったが 『ひなた』のスタッフや隣の診療所が関わってくれ 相談所、および障害者支援相談として「さくらん るので安心」という声が寄せられています。併設し た「ヘルパーステーションひなた」も入居者が安 心してまた、豊かに生活が送れるよう介護サービ スを提供しています。

> また、中川健康友の会のさわやか体操班やヨガ 班もひなたのホールで例会を行っており、入居者 さんも自由に参加できます。地域のみなさんにも 親しまれるようになってきた老人ホームひなたで

すが、まだまだ入居可能 となっています。気軽に 「お試し利用」もできる ように1日3500円での 体験も行っています。ぜ ひご利用ください。



【『助けあおまい会』の活動】

安心して生活していくには介護保険だけではど うしてもカバーしきれない、また介護保険は使って いないけれどもちょっとした手助けがあれば助か る、そんな高齢者はたくさんいます。中川健康友 の会で始めた『助けあおまい会』は会員相互の助 け合いの組織です。30分100円という安価で買い 物のお手伝いやゴミ出しの手助け、掃除など簡単 にできることで助け合おうというものです。利用会 員、援助会員ともに増えることでこの地域の高齢

(3) 第509 号(增刊号) 2017. 5. 1

わたしたちは、「あらゆる活動を共同組織 とともに」すすめます。今最も重要な課題 は、安心しで住み続けられるまちづくりと

は、安心して住み続けられるまちづくりと無差別平等の地域包括ケアの実現です。

づくりなどを更に発展させることで実現します。

②これからの活動を前進させる上で重要な事は、

共同組織の担い手づくりと共同組織活動への職

①私たち民医連がめざす「無差別・平等の地域包

括ケア」は、共同組織がこれまで地域で培って

きた、健康づくり・助け合い・見守り・居場所

● 「地域の健康づくり」の運動は事業所と共同組織が一体となってすすめる重要なとりくみです。

特定健診(友の会健診)、大腸がん検診、乳がん検診を重点検診とし、各事業所で年間目標を決め、地域での健康づくりのとりくみを引き続き前進させました。

特定健診(友の会健診)、大腸がん検診・乳がん検診を重点に、「名南会健康推進委員会」を中心に友の会各地域支部との共同のとりくみとして、健康まつりや地域訪問での検診お勧め行動や地域で広げる郵送大腸がん検診などに取り組みました。その結果、特定検診は年間目標まであと一歩、大腸がん検診は年間目標を上回り実施件数は過去最高となりました。また、乳がん検診は9年連続で1,000件を上回りました。HPH(ヘルスプロモーションホスピタル・健康増進活動)は、名南病院が国際・日本HPHネットワークに加盟し(名南ふれあい病院は17年度加盟予定)、初めて職員と地域の健康活動領域に取り組みました。



名南健康友の会「保健学校」



中川診療所「秋の健康講座

「健康チャレンジ・健康ウォーキング」は春と秋に行い、特に秋にはHPHの取り組みとして体力測定などを取り入れ内容が豊かになりました。

まちかど健康チェック (アピタ・トスカの2カ所)、健康体操サロン (昭和区、名南診療所など4カ所) も取り組みが継続定着しています。 友の会活動の担い手づくりとして、保健学校 「認知症サポーター養成講座フォーローアップ研修」 (名南健康友の会・2月) を企画しました。

中川診療所では、「健康づくり懇談会」(5会場のべ95名参加)、「秋の健康講座~どうなる介護保険~」に25名の参加など、健康要求に基づく企画を成功させました。

2 各事業所・地域ごとに目標をもった資金募集にとりくみ、引き続き多くの社員・友の会員の方に協力をいただき、年間9,278万円(年間目標1億円)の協同基金が寄せられました。

"名南会協同基金は、差額ベッドのないよりよい病院、施設を支える大切な力"と職員、共同組織の共同で、今年度も各事業所で外来や病棟での訴え・地域訪問行動などにとりくみ、資金募集の年間目標の達成をめざしま

した。目標の1億円には届かず、協力件数も前年を下回りました。事業所目標は、名南病院・中川診療所・本部事務局で達成しました。この点では、協力をお願いする「友の会員」の大幅増の取り組みがどうしても必要です。目標達成のために組織拡大と合わせて協力の呼びかけを強めます。



火の運動月間で挨拶する三宅理事!

3 友の会員の要求を出発点に、友の会らしい仲間づくり・健康づくりの活動が広がっています。地域に交流の場・居場所づくりをすすめ、民医連事業所と友の会が共同して、安心して住み続けられるまちづくりと無差別平等の地域包括ケアの実現をめざしました。

3事業所内で開催しているコーヒーサロン、2カ所で開催しているお食事サロン、ゆめっこ広場 (子育てサロン) などは定期的に継続開催され、参加者・ボランティアさんとも増えてきました。また12月から、ほんわか食堂 (子ども食堂) を立ち上げ、毎月開催で名南病院講堂にて今年度4回行いました。ほんわか食堂は、現在では地域の親



始まりました! ほんわか食堂(子ども食堂)

子さん・ボランティアさん・職員など50名以上の参加で、開催にあたり行政・町内会、地域の諸団体との協力も広がりつつあります。

員参加です。

認知症をもつ人が地域で暮らし続けられるような取り組みとして、認知症カフェ「カフェひまわり」をかたらいの里で友の会と共同で毎月開催し、介護者等のほっと一息つける場所として参加者は徐々に増えつつあります。名南診療所地域で取り組んでいる「トスカ健康ひろば」(友の会・職員・南区社会福祉協議会の三者共同)と合わせ、地域包括ケアの具体的実践となっています。

安心して暮らせるまちづくり、高齢者の見守り活動をすすめました。中川健康友の会は、友の会の見守り・サポート組織 [助けあおまい会] を発足させ、診療所と地域が力を合わせて、「みんなが安心して住み続けられるまちづくり」の活動が具体的に始まりました。また、名南・中川健康友の会とも、「気になる会員さん」、夏の「熱中症訪問行動」を継続して行いました。安心して暮らせるまちづくりに向けて、地域住民が主体となる住民の健康づくり運動(自治体への要求運動)なども今後すすめていく必要があります。

4 平和、くらしを守るとりくみ〜みんなで学んでみんなで行動〜。 憲法を守り、安全・安心の医療と介護の実現、社会保障制度の拡充 の運動に全力で取り組みました。

私たちは何よりも「いのちと平和」を大切にし、「貧困化」など困難が広がる地域に寄り添い、誰もが医療を受ける権利(生存権・受療権)を守ります。職員と友の会が「名南会社保・平和委員会」として共同でとりくみ、原水爆禁止世界大会、秋の国民大集会、3・1ビキニデーなどに学習を行いながら代表を派遣してきました。



スーパー前で署名行動

二つの署名を重点に取り組み、安全・安心の 医療介護署名1226筆、名古屋市国保改善署名 1452筆でした。

憲法改悪の動きが強まる中、全日本民医連の憲法学習月間に合わせ、講師を呼んでの全体学習・各事業所で学習会を数多く開催し、名南病院・名南ふれあい病院では、憲法カフェなどの取り組みも行いました。

今期、今まで社保・平和活動に参加した青年職員を中心に「SIP」をつくり、学習や交流と社保・平和活動への青年職員の積極的参加を目的に活動が始まりました。秋には、友の会と職員



原水禁世界大会「広島」に 派遣した名南会代表

が共同で、スーパー前で「(名古屋市) 国保改善署名」の街頭行動 (5回) に取り組みました。また、南区減免の会や革新懇 (南区・瑞穂区)、「中川区をよくする会」 などとの共同した地域の運動にも参加してきました。

り 楽しい友の会全体企画、地域での行事などでは、職員、共同組織相互の親睦が深められました。名南・中川健康友の会は9,018名の会員数となりました。また、民医連の共同組織との交流を深め学びました。

名南健康友の会は3年目になる企画 「新春のつどい」を開催、各地域での健康 まつりなどを引き続き成功させてきました。また、友の会員の要求に応えた春・ 秋の行楽企画なども取り組みました。

「全国共同組織活動交流集会(石川)」に名南・中川健康友の会7名、職員5名で参加し、自分たちの活動を報告し、他の民医連の活動経験も学んできました。



2017. 5. 1 第509 号(增刊号) (4)

医療法人名南会 2017年度方針(案)

1967年に名南外科診療所が開設し、名南会の医療活動が開始して50年となります。これは、伊勢湾台風被災(1959年)の医療救援活動からの地域での民主的診療所づくりの運動、たぶち医院や千田病院での医療活動を担った医療従事者の運動が合流したものでした。名南会50年の歴史をふり返り、今後の名南会の展望を語り合い、さらなる発展を期する年にしていきましょう。

2017年は、国民主権、平和的生存権、基本的人権を普遍的権利 として宣言した世界に誇る日本国憲法が施行されて70年目の年で す。安倍政権の暴走は、いまやこの憲法も議会制民主主義のルー ルも守れないものとなり、国民との矛盾を強権でしか乗り越えられ ない状況です。一刻も早く退陣させ、今年を憲法といのちが輝く 年に転換させていきましょう。

また、2017 年度は、診療報酬・介護報酬の同時改定、地域医療構想にもとづく医療計画、介護保険事業計画、医療費適正化計画、実施が延期された新専門医制度、地域医療連携推進法人制度の開始などが同時に相互に関連しながらすすめられる年です。「惑星直列」「分水嶺」(厚労省幹部)といわれ大転換が迫られる情勢です。地域の医療機関の動向も大きな動きの中にあります。

地域では、高齢化の進行による認知症と独居の増大、経済的な困難による受診抑制が深く広がっています。名古屋市南区は、人口減少が進み、高齢化率と生活保護世帯比率が市内トップとなり

高齢化と貧困化が特徴となっています。

医療法人名南会は、2012 年度から 2016 年度までの第6次長期計画を実践してきました。第6次長期計画では、①名南病院リニューアルを行い名南病院の医療活動・経営活動の前進をはかり、②中京病院など地域の医療機関との連携、地域の介護施設との医療・介護交流会や在宅カンファレンスなど各事業所での連携の取り組みが活発に展開され、③健康友の会と共同し、各地域でのお食事サロンなどの交流企画、健康チャレンジなど健康づくりの取り組み、子ども食堂の開始、さらには地域の助け合い事業など地域組織活動の質的飛躍がつくられてきました。

一方で、経営課題では、民医連経営はかってなく厳しい状況に 直面しており、名南会もその厳しさの中にあります。法人及び各事 業所の経営管理組織のあり方を根本から見直し、2017 年度方針及 び第7次長期計画の実践を通じて、全職員で困難を打開していく ことが何としても求められています。大いに奮闘していきましょう。



2017年度の重点課題方針

① 戦争法廃止、立憲主義の回復、平和憲法を 守り、社会保障の営利・市場化に反対し、 地域と職場からたたかう

日本国憲法に基づき平和と社会保障を守る総がかり運動、市 民と野党の共闘を推し進めます。人権のアンテナで患者・利用 者の困難な実態や事例、格差と貧困の実態を地域に出てつかみ、 さまざまな団体とともに改善に向けた運動に取り組みます。職 員一人ひとりが当事者性を発揮し、学びつつたたかうことを重 視します。

③ 第7次長期計画の実践へ、全事業所で管理運営体制を強め、法人全体で月次経常利益予算の達成をはかる

「医療·介護活動」「医師・職員養成」「経営改革」「組織・運動」の好循環をはかり、経営管理の質を引き上げます。各事業所ごとの予算達成から「法人全体で月次経常利益予算達成」を徹底して追求します。基金拠出型医療法人への移行から、非営利性と民主性の徹底と経営の安定をはかり、特定医療法人への移行をめざします。

② 無差別・平等の医療・介護の実践、総合的 な医療・介護の質向上をはかり、いっそう の連携で地域包括ケアにとりくむ

オール名南会として地域包括ケアセンターの役割をめざし、 多職種協働による医療・介護の質の向上、QI事業と医療安全活動、職員が事例から学び成長するカンファレンスを重視します。 継続的な医療・介護の展開をめざし、法人として総合的な病床・ 施設利用を進めていきます。HPHと連動した地域での総合的なへルスプロモーションを進めます。

④ 健康友の会とともに、健康増進活動、ささえ合い活動をすすめ、誰もが安心して住み続けられるまちづくりをめざす

地域の声から実態をつかみ、事業所と友の会の活動を通じて 友の会員を増やし質と量の強化をはかります。事業所と友の会 の共同で、名南会協同基金募集と健診運動の目標達成をめざし ます。居場所づくり、助け合い、見守りなどの拠点づくりを行い、 助け合いの事業化も含めた体制づくりを追求します。組織活動 の見える化を進めます。

⑤ 民医連らしい運動と事業に裏付けられた職員育成、いきいき働き続けられる勤務環境改善をはかる

名南会にとって医師の確保と養成は最重要な課題となっています。新専門医制度に対応し、民医連と地域との連携のもと医師後期研修プログラムの整備をはかります。育てる奨学生活動、新入職員研修から専門資格取得まで職員の育成をすすめます。職員が健康で安心して働き続けられる勤務環境の整備をはかっていきます。